

宗教紛争にピリオドを

～民族と宗教の違いを乗り越えるメシアの教え～

☆オープニング映像①『大悟の法』第4章 大悟の瞬間

釈尊は、「第一次的な霊眼によれば、自分と他人は別個の存在のようにも見えるが、もっと深い目を見たときには、自他は別のものであって別ではない。自他は別個に非ず、一体なり」ということを悟りました。

☆オープニング映像②『勇気の法』第5章 真実の人生を生き切れ (2008.1.14)

大きな一本の宇宙の大木があるのだ。【中略】魂的には、本当は一本の木につながっているのだ」こういうことを知っていただきたいのです。だから、私は、みなさんに愛を説いています。

○イスラエル・パレスチナ問題の流れ

・創世記12章7節「時に主はアブラムに現れて言われた、『わたしはあなたの子孫にこの地を与えます』」。

→(紀元前4000年)ここから現代に続く中東問題のすべてが始まった

・ヤコブの頃にエジプトに移住。

→モーセによる出エジプト、数十年の放浪の旅の末、古代イスラエル王国を建国

・ユダヤ教徒の中からイエスが現れる

→ユダヤ人は十字架に掛け、「呪われた民」として迫害を受ける

・紀元70年のエルサレム攻囲戦、属州のユダヤ人とローマ帝国の戦い

→ユダヤ人は国を失う

・約1900年ぶりの1948年5月14日にイスラエルを再建国

→約70万人のパレスチナ人が難民に、今では約600万人

○それぞれの主張

ユダヤ教徒「国が無いから迫害を受けた。ここは自分たちが神に約束された土地である」

キリスト教徒(福音派)「キリスト(ギリシャ語)の再臨にはユダヤ人国家イスラエルは欠かせない」

イスラム教徒「我々が住んでいた土地であり、『コーラン』には『迫害者は殺しても構わない』とある」

○前進しない和平交渉

・エジプト大統領アンワル・サダト(1981年10月6日)

彼はイスラエルを国家として承認、イスラエルはシナイ半島をエジプトに返還することに合意。

「エジプト＝イスラエル平和条約」に調印し、ノーベル平和賞を受賞したが過激派エジプト人に殺害された。

・イツハク・ラビン首相（1995年11月4日）

PLOのアラファト議長と「パレスチナ合意」、中東和平に尽力したことでノーベル平和賞の受賞。

「裏切者」と非難する過激なユダヤ人に銃弾で撃たれて殺害された。

→イスラエル・パレスチナ問題は、まぎれもなく宗教問題

○映画『永遠の法』 七次元菩薩界のシーン

「違う宗教の天使たちが一緒に！？地上では民族や宗教の違いで紛争が続いているのに」

「人間は様々な時代、様々な地域に生まれ変わる。だから戦争やテロで戦っている相手の国は、かつて自分が愛した祖国かもしれない。憎いと思っている敵は、かつての自分の家族や友人の生まれ代わりかもしれない。

それが真実」

→転生輪廻と業の問題

○『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション③』第2章 悟りの極致とは何か (1989.12.17)

私たちは、何度も何度も教えのなかで言うておりますように、今から数億年以上の昔に偉大なる神の魂が分かれて、そうして地球、あるいは地球によく似た人類の生存に適する環境において魂修行をし、宇宙に「繁栄」と「進歩」をもたらすために命を持ったのです。

→愛の神エル・カンターレの教え「自分に厳しく、他人には寛容に」

☆聖地エルサレムの問題－「嘆きの壁」と「岩のドーム」

【嘆きの壁】－エルサレム神殿の外壁のうち、現存する外壁の西側の部分。

・神殿はユダヤ教で最も神聖な建物、最初の神殿はソロモン王によって建てられ、「バビロン捕囚」の時に破壊。

・その後、イスラエルに戻って第二神殿が再建され、紀元前20年にヘロデ王によって拡張される。

しかしこのヘロデ神殿も、ソロモン神殿と同様に紀元70年に破壊される。

→ユダヤ教徒の悲願は第三神殿の建設

【岩のドーム】ムハンマドが昇天する旅「ミウラージュ」を体験した場所、イスラム第三の聖地。

・アブラハムが息子イサクを神のために捧げようとした台でもある。
・ダビデ王はこの岩の上に、契約の箱を納め、ソロモン王はここにエルサレム神殿を建設した。

→もし破壊されたら世界70カ国、17億人のイスラム教徒が・・・

つまり人類は、“民族と宗教の違い”を乗り越えると共に、「宗教における聖地」という問題の答えも、導きださなければならない。

→仏陀にしてメシアの教えはそれができる

『青銅の法』第5章 愛を広げる力

この地上に「聖地」というものはあるかもしれませんが、それは、あくまでも、あの世にある神仏につながっていくための縁にしかすぎません。そうした「手段」と「目的」とを間違えてはいけないのではないのでしょうか。

→では、人生の目的とは何であるのか？

『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション①』第5章 究極の自己実現

まず愛あれ。愛ある人となれ。愛の溢れる人となれ。そう、私は言っています。出発点の愛は「与える愛」。この出発点において、難しいことを要求していません。【中略】もし、これから後の教えが難しいのならば、忘れていただいて結構です。

→信仰の証とは、悟りを高めて愛溢れる人になっていくこと

○映画『永遠の法』天使の働き

「私たちも愛することを止められないのです。私たち自身が熱い愛の想いとなって、愛の風となって、吹き渡っていくしかないのです。それが幸福になるということではないのでしょうか」

○『真実への目覚め』第5章 愛と天使の働き

どうか、よく聴いてください。

私が、ここに来たのは、あなたがたに天使になってもらいたいからです。【中略】

地上の人間は、天上界を見ることも、神の姿を見ることも、地獄界を見ることもできません。そうした、本当は見ることのできない世界を、信仰のみによって知り、神への道を歩んでいる、あなたがたこそ、日々の精進のなかで天使になっていただきたい存在なのです。

どうか、その方向で、日々、智慧を磨き、努力・精進してくださることを、心から願ってやみません。